

出身校上海市華東師範大学の
キャンパスから新文科系ビルを望む

どに対して尊敬するのは、良いことかつ日本の社会風習なので、守らなければならぬはずである。しかし、学校内ではこの風習をやり過ぎると、授業または研究会での発表の内容を客観的に討論できないし、学問をも進められないのである。また、学生の創造性の育成についても、個性の発達及びストレスの解消の面から良くないと考える。

学術研究の雰囲気

学校は一般的市民社会と異なって、学校らしい特有な雰囲気をもつべきである。大学にとっての最も重要なことは、学術研究であると思われる。一般に言えば、学術研究の雰囲気は以下の諸側面から表れられる。例えば、

全校の学生に向け、大規模（あるいは中規模）の学術講座を行ったり、創立記念日で各学部の学術報告会及び研究成果の公布会を開催したりすること、又は優秀人物（先生や学生など）に対する奨励をすることなどである。

ンパス内で、お好み焼き、おでん屋、餃子が出されたり、コンサートが開かれたりする大学祭など）が行われるが、学術に関する活動は数少ない。大学は学術を研究する場所であり、その周辺の地域社会と異なりながら、地域社会の教育と文化さらに経済を引き上げる役割を担当している。もつと大学としての機能を発揮する必要があるのではないかと私は思う。

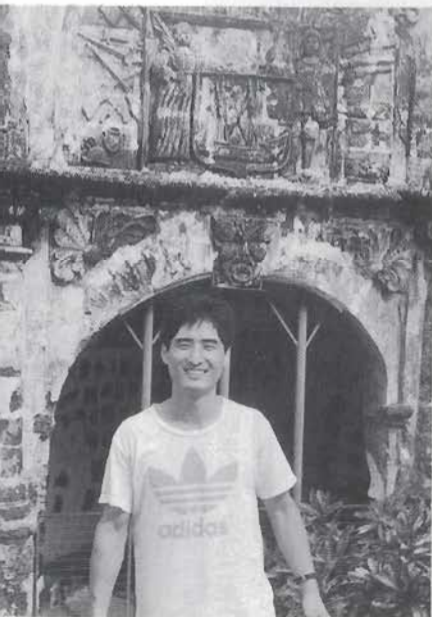
「留学生の眼」

社会科学研究所博士課程前期経済学専攻二年

安 琪 正

時の流れは速く、日本に留学して早三年、今更日本のことを書こうとしても何を書いたらよいのやら、なかなかアイデアが浮かんでこない。もう日本の生活にすっかり慣れてしまったからだろう。おまけに韓国と日本は地理的に非常に近い所に位置しており、昔からの頻繁な交流がお互いの共通点を数多く作り上げているという事が、「日本について」書くことを難しくしている。それでも最初の一年間は面白いことが続発していたものだ。「どうして日本には白い車が多いのか」、「どうして銭湯の番台は一

一九六四年韓国全州に生まれる。八九年全北大学を卒業。一年間の研究生活を経て九一年に広島大学社会科学研究所に入学、今春修了予定。



マレーシア旅行のマラッカにて



広島大学の各国留学生と韓国へ行った時（ソウルの秘窟にて）

つしかなのか、「どうして日本人は挨拶ばかりしているのか」、等々疑問だらけだった。

留学して三年経った今、面白いことが何も頭に浮かんでこないのは不思議だ。やはり今では「留学生の眼」ではなくて、単なる一人の学生の眼にすぎなくなってきたのか。しかし、最近起こった一つの事件(?)は、私に、自分が「留学生の眼」を持つていることを再確認させてくれた。

先日、旅行中の友人二人が韓国から訪ねてきた。久しぶりに会ったこともあり、あちらこちらを案内した。その日、宮島から戻って来る途中、席に座ってうたた寝していた友人がいきなり立ち上がった。「どうして立つの」と尋ねたら、疲れた顔をして吊り革を持って立っている正面のおばあさんをこっそり指さす。私は、「いいよ、日本の男たちはそんなことしないから」といって無理やり座らせた。彼は、今度は女学生の重そうな鞆がどうしても気になっているようだ。「早く鞆取ってやれよ」。「大丈夫だって、ここでは取ろうとしても、こっちに預けようとはしないから」と、厚かましく言っている私と、同じように「知らぬ存ぜぬ」を決め込んでいる男たちを、不思議そうに眺めていた。儒教の国、韓国からやって来た友人の視線が今でも印象に残っている。そう言えば三年前は私もバスの中ではいつも立っていたのに、私も他人を尊重してこうなったのか、それとも他人に無関心になってきたのか判らなくなってきた。あ！私もいつの間にか日本の男になっている。その後、日本の男たちのことについている

いろいろ考えるようになった。服装のことからすぐ涙を流すことまで、とにかく弱々しい男の姿をよく見かける。「日本はとても落ち着いて、とても静かな国だ」と留学生の間ではよく言われる。これは逆説的に言えば、活気がないという意味で、そこには日本の男の「男らしさ」の欠如が大いに関係しているのではないだろうか。「日本の犯罪率が少ないのは、男が女性化しているからだ」というようなでたらめな話が、決して冗談だけとは感じられなくなってくる。確かに日本は、早くから西洋文明を受け入れ、豊かな社会、否、豊かな国家を築き上げて、あらゆる面で便利な国になった。しかし、便利さを追求したあまり、大切なことを一挙に失ってしまったのではないかと思う。特に、「男らしさ」の喪失は高齢化社会の日本を一層高齢化させ、未来の日本を更に活気のない国にするに違いない。古くからの価値観、倫理規範が高度に発達した日本社会の実勢にそぐわない点は少なくないが、それでも日本の伝統的倫理規範の単純な無視は、真に豊かな社会、活気あふれる社会へのチャンスを失うことになるのではないだろうか。

一方、日本の足跡を懸命に追いかけている我国、韓国も将来的には日本のようになるのでは。しかし、夜の町を不安で歩き回れない「男らしさ」のあふれる国よりは、「男の女性化」が進んだ国のほうがましかもしれないが。

今日は何日! 안녕하세요

アンニョンハセヨ